

様式 1

令和 5 年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

1 研究課題名

国語教育における ICT、主にデジタル教科書を活用した効果的な授業モデルの構築

2 研究代表者

旭川校・教授・大橋賢一

3 研究分担者・研究協力者

渥美伸彦 准教授（研究分担者）
長谷川範彰 准教授（研究分担者）
西内沙恵 講師（研究分担者）
〔附属学校・高等学校教員〕
本間里彩 附属旭川小学校教諭（研究分担者）
嶋田善行 附属旭川中学校教諭（研究分担者）
永井悦美 附属旭川中学校教諭（研究分担者）
片平大知 附属旭川中学校非常勤教諭・本校教職大学院院生 2 年（研究協力者）
佐々木千紘 旭川藤星高等学校教諭（研究協力者）

4 令和 5 年度研究計画の達成度

（以下の項目□に1つチェック☑を入れてください。）

- a 計画とおり達成した
 b 概ね達成した
 c あまり達成できなかった
 d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】

5 学術的成果

【論文投稿】

- ・渥美伸彦 (2024) 「国語科における ICT 活用指導力の向上に資する授業の検討－教員養成大学における国語科授業研究の展開－」、『月刊国語教育研究』、No.623
- ・永森篤・渥美伸彦 (2023) 「可視化の組合せと振り返りの機能を生かした話し合い授業の実践研究」、『旭川国文』、36 号
- ・長谷川範彰 (2023) 「小学 5 年生を対象とした、辞書に親しむ授業の実践報告：紙の辞書とウェブの辞書の差異」、『旭川国文』、36 号
- ・西内沙恵 (2023) 「小学 5 年生を対象とした、辞書に親しむ授業の実践報告：紙の辞書とウェブの辞書の差異」、『旭川国文』、36 号
- ・片平大知 (2024) 「中学校国語科における古典の指導方法の検討－暗唱を用いて－」、『北海道教育大学大学院高度教職実践専攻 研究抄録』、15 号

【書籍出版】



【学会発表】

- ・西内沙恵「紙とデジタルの違いが「深く読む」読解活動に及ぼす影響－中学二年生を対象に－」2023 年度第 145 回全国大学国語教育学会（信州大会）発表予定
- ・「デジタル教科書の有効性検証・活用法検討のための基礎的調査－高等学校・古典分野の場合－」（長谷川範彰、北海道教育大学旭川校国語国文学会第 238 回月例会：2024.3.15 開催）

【その他】

- 渥美伸彦「令和 5 年度国語科教育学演習 I における授業研究の推進」→本年度は昨年度の取組を改善し、「デジタル教科書」を軸とした授業研究を行っている。
- 片平大知／嶋田善行／永井悦美（中学校での取り組み）
 - ・朗読や暗唱をする前にデジタル教科書の朗読を聞かせている（聞かせる）
 - ・伝統的な言語文化の単元において効果的にデジタル教科書や ICT 等を使って情報を把握させている（把握させる）
 - ・朗読や暗唱の際にタブレットなどの ICT 等を使って動画を撮影し、振り返り等に効果的に生かしている（生かす）

→こうした実践を「中学校国語科における暗唱等の機能の充実を目指した古典指導研究」と題して片平の研究論文にまとめる予定。

6 実践的成果

【教材】

【評価方法】

【指導（授業）案】

- ・渥美伸彦・本間里彩（2023）「文字認識アプリを活用した話し合い指導の実験研究」、北海道教育大学附属旭川小学校教育研究大会、2023年6月実施
- ・渥美伸彦・本間里沙（2023）「自立した読者を育てることを目指した読書活動の導入－「コラボ読み」と自己調整学習を繋ぐ試みの検討」、北海道教育大学附属旭川小学校校内研究授業。2023年12月実施

【教育方法】

【その他】

上記の論文については下記の北海道教育大学リポジトリからダウンロードが可能である。

https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=-createdate&search_type=0&q=%E6%97%AD%E5%B7%9D%E5%9B%BD%E6%96%87

7 その他、研究実施状況

●2024年度全国漢文教育学会大会を北海道教育大学旭川校で開催する予定。

研究授業を附属旭川小学校において開催予定。その学会で言語教育あるいは、古典で ICT と関連させた授業を公開する予定。